

	発行者の略号	東書	三省堂
	書名	新編 新しい国語	現代の国語
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	「言葉の力」を一番に大切に、教材配列や3学年の系統性で生きる力をつけていく工夫がされている。また、三領域の学習でテーマについて認識を深めながら、「未来を考えるための9つのテーマ」について様々な視点から考える工夫がされている。	1「学び方」がわかる 2「対話」を通して深める 3学びをつなげる を柱にして、主体的に課題を解決する力を高めるための工夫がなされている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①各教材の冒頭に育成する力に対応する「目標」と生徒目線で書かれた「問いかけ」によって何に注目して学習すればよいのか明示し、教材末の「振り返る」で生徒自身が学習した「言葉の力」を自分の言葉で認識できるよう工夫されている。 ②「読むこと」で習得したことを「話すこと・聞くこと」「書くこと」で活用・定着できるように領域間の関連が図られており、効率よく身につけられるように工夫されている。 ③教科書全体を通して設定された「未来を考えるための9つのテーマ」が各教材と関連しており、国語の学習を通して自分や社会の課題と向き合えるよう工夫されている。	①情報を的確に捉えて考えを深めるための「思考の方法」、教材の言葉をきっかけに多様な観点から語彙を豊かにする「語彙を豊かに」を設定するなど、基礎的・基本的な知識および技能が確実に習得できるように工夫している。 ②読みの方略を学ぶ「読み方を学ぼう」や、「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材に示した「学習のポイント」「思考の方法」など、「学び方」を学ぶための工夫を凝らし、汎用的な力を身につけられるようにしている。 ③確かな目的と見通しをもち、「学び方」を意識しながら学習を進め、学びの成果を実感することで、意欲的に取り組めるよう工夫している。また、全学年にグループディスカッションを設定するなど、協働的な学習活動を通して仲間とともに達成感を味わうことで、学ぶ意欲を高める工夫がなされている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ねよい。	概ねよい。
	（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①問題解決的な言語活動が多く設けられ、生徒どうしが助言し合ったり、議論を通して考えを深めたり、互いの考えを生かして結論をまとめたりするなど、協働して学びを深められるよう工夫されている。 ②豊かな情操を育む文学作品、共感する心を養うドキュメンタリー、公共の精神を培う協働的な言語活動が豊富であり、道徳との関連が図られている。 ③「読むこと」教材のてびきの中の「広がる言葉」では、作品中の表現と関連する言葉を学ぶことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。また、「広がる言葉」と関連するQRコンテンツ「言葉を広げよう」には、1870語の言葉のリストが用意されており、意味・用例を知ることができる。 ④我が国で長く読み継がれてきた優れた古典作品が、文種や内容、成立年代のバランスを考慮して取り上げられている。 ⑤インタビューやスピーチ、グループディスカッションやプレゼンテーションなどの体験活動が取り入れられている。 ⑥小学校の学習内容を踏まえて、中学校3年間の「言葉の力」と言語活動が設定されており、学習指導要領に基づく小中9年間の系統性が図られている。 ⑦「情報と論理の学び」や「読書と情報」などの教材で情報の信頼性の確かめ方が扱われており、情報リテラシーを育成することができる。 ⑧QRコンテンツを利用することができる教材には二次元コードが示されており、生徒がICT端末を使って、必要に応じて活用できる。映像やアニメーション、シミュレーション、資料など多彩なコンテンツが用意されている。	①「学びの道しるべ」において、学習の見通しと振り返りが明確に位置づけられている。また、各教材で、対話を通して考えたり問題解決したりする活動が位置づけられている。 ②他教科や日常の言語生活との連携を図り、幅広い題材についての認識を深め、国語の学習で習得した言葉の力が他教科等や社会生活などの中で生きてはたらくよう工夫している。 ③「言葉発見」「漢字のしくみ」「文法の窓＋文法のまとめ」の3系列をバランスよく配列することで、日常の言語生活を豊かにし、言語運用能力を育むことができるようにしている。 ④「読書の広場」では、「古事記」「那須与一」「さまざまな古典」を取り上げているほか、資料編では、「落語の世界」「歌舞伎の世界」「能・狂言の世界」について、豊富な図版とともに親しみやすく紹介している。 ⑤全領域の教材において、「つきたい力」との関連を明確にして、多様な言語活動（紹介、説明、提案、議論、案内、報告、創作、編集、論述、批評など）が配置されている。 ⑥1年の最初の「読み方を学ぼう」で、小学校で学習した読解の基礎・基本を確認でき、中学校の学習に円滑に接続できるようにしている。3年では、ものの方見方を広げ深め、生き方を考えさせる、高校への橋渡しになるような教材を配置している。 ⑦各学年の第6単元に「情報を関係づける」として、「情報の扱い方」に特化した単元を設けてある。ICTを取り入れた学習に対応しており、学習の過程においてICT活用のイメージを持ちやすいように工夫されている。 ⑧見開きによる情報のまとまりを重視し、学習に必要な内容が次のページにまたがらないよう工夫している。 ○学習をサポートする役割を持った親しみやすいキャラクターや漫画を使った学習の導入などにより、知識・技能の習得がスムーズに行えるよう工夫している。
（エ）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②前回改訂時より各学年30ページ以上ページ数が削減されて軽量化が図られ、生徒の身体的負担に配慮されている。（3学年平均538g、前回592g、今回他社平均587g） ③カラーユニバーサルデザインの観点から、全ページにわたり、配色とデザインについて専門家による検証・校閲が行われている。	①概ね適切である。 ②カラーユニバーサルデザインによる色の区別に加え、形の違いや記号、番号、説明文などの補助的な手掛かりを設けている。 ③読みやすさ、学びやすさを追求し、開発された独自のフォント（明朝体、ゴシック体、教科書体など）を使用し、漢字の画数や点画の方向等において誤解が生じないよう配慮されている。	
（イ） 教科・種目別の観点	①学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の資質・能力を育成するための題材として工夫や配慮がなされているか。	①「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材では、日常生活や社会生活を題材にした多彩な言語活動が用意されており、他教科の学習や日常生活・社会生活で必要となる思考力、判断力、表現力等の基盤が、国語の学習で培えるように工夫されている。	①学習活動の手順を明確に示すとともに、「学習のポイント」やテーマ例・スピーチ例・話し合いの例、作文例、作品例などを示し、ゴールイメージをもつことで、学習に取り組みやすくなるよう工夫している。また、単元構成を、各領域での学びをつなげ、積み重ねながら資質・能力の育成を図るよう工夫し、他教科や社会生活に活用できるよう、3学年にわたって系統的に教材を配列している。
	②語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮がなされているか。	②「読むこと」教材のてびきの中の「広がる言葉」では、作品中の表現と関連する言葉を学ぶことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。また、「広がる言葉」と関連するQRコンテンツ「言葉を広げよう」には、1870語の言葉のリストが用意されており、意味・用例を知ることができる。	②各教材に設定している「語彙を豊かに」と、資料編「語彙の広がり」「辞典を活用する」「学習用語辞典」を通して、多様な語句を身につけて語感を磨くことができるようにしている。
	③読書活動の充実を図るための題材として工夫や配慮がなされているか。	③「読むこと」教材や読書教材、「未来への扉」、資料編など、随所に「読書案内」が用意されている。3年間で合計422冊の、さまざまな種類・テーマの本が紹介され、著名人の推薦本も紹介されているなど、生徒の多様な興味に応えられるように配慮されている。	③各学年に「私の読書体験」「私の本棚」が掲載され、教材との関連性を明示しながら図書を紹介するとともに、「読書の広場」に5、6本の多様なジャンルの読書教材や、「小さな図書館」にテーマごとに47冊の図書が紹介されている。また、ブックトークやビブリオバトルなどの多彩な読書活動を配置し、読書に取り組む態度が育つよう工夫している。

	発行者の略号	教出	光村
	書名	伝え合う言葉 中学国語	国語
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	「学びのチカラで人と社会を未来へつなぐ」を編集の趣旨として、1「学び」が見える、2「学び」が深まる、3「学び」がつながる、という3つの「学び」を特色として掲げている。	「国語力」「新QR×個別最適」「語彙力」「教材の力」を基本方針に、「学びへの扉」で学習の課題を焦点化し「学びのカギ」に示された資質・能力を使ってそれを解決する、という繰り返しにより、実生活に役立つ課題解決能力を育てる工夫がされている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①各教材に「知識及び技能」の指導事項が設定されている。言語教材では、単元内に「言葉の小窓」「文法の小窓」を記し、日常の言語生活から言葉の存在や機能に気づく言語学習への導入を図っている。 ②教材の初めに「学びナビ」を設け、その教材で取り組む言語活動の中でどのような思考力をはたらかせると効果的かを解説と図解で示し、活動内容を視覚化・明確化している。また、「学びナビ」で取り上げた思考力が、実際の表現にどのように表れているか、図解で具体例を示したり、文例のあとに話型や文型等の表現を取り立て、思考力をおさえた表現活動が今後の学習にも活用したりできるように図られている。 ③新しい時代の社会を担う一員として、生活や社会におけるさまざまな課題に対して、それを発見し、他者との協働的な活動の中で、コミュニケーション力を高め、互いの立場や考えを尊重し、よりよい解決を目ざす態度と能力を育成できるよう、配慮されている。	①言語に関する基礎的・基本的知識、学習活動や情報活用に関する基礎的・基本的技能を着実に習得し、それらを繰り返し活用して定着させる構成になっている。 ②「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の冒頭の見開きや「読むこと」教材の「学びへの扉」により、生徒が学習活動全体を見通し、自らの学習を調整しながら対話的に理解や考えを深められるよう構成されている。 ③学習用端末を活用できる学習活動が「ICT活用のヒント」などに示されている。また、興味・関心や課題に応じたQRコンテンツを350点以上収録している。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ねよい。	概ねよい。
	（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①目標とともに「学びナビ」が本文や学習活動の前にあることで、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の目的意識をもって学習できるように工夫されている。また、教材の後の「みちるべ」「振り返り」では、生徒が交流活動によって相互に課題を交換したり、振り返りをしたりすることで、主体的・対話的で深い学びが導かれるように図られている。 ②教材末の「学びを生かす」で、国語科で学んだことを他教科や日常生活に活用できるよう、示唆している。 ③「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、教材名や目標でも言語活動を明示し、さらに、「目標」「学習活動の流れ」で、学習の見通しと重点、言語活動を示している。「読むこと」教材の学習の手引き「みちるべ」では、「自分の考えを伝え合おう」で示される学習課題が、授業での言語活動として取り組むように盛り込まれている。 ④現代の生徒の関心を高められるよう、生徒の学習経験や知識等との関連を図り、巻末付録にも本教材と同じ作品から別の章段等を選んで掲載されている。また、資料も多彩である。 ⑤各領域の学習活動では、自分の考えの共有等のために、協働して学習する活動を適宜設定し、個人の課題を協働して解決するための力が高まるように工夫されている。 ⑥1年冒頭単元では、小学校の学習を踏まえ、中学校の国語学習を展望する教材を設けている。また、高等学校の教科書でも多く取り上げられている執筆者の文章を掲載し、高等学校の「読むこと」の学習にも円滑につながるように構成されている。 ⑦生徒が日常で接する多様なメディアについて、媒体の特色や扱い方、接する際のモラルや注意点等、メディアに対する知識と活用を高める教材が掲載されている。 ⑧二次元コードコンテンツ「まなびリンク」にある動画や参考リンク資料等の活用で、国語の学習を補助できるように図られている。 ⑨螺旋的・反復的に繰り返して学力向上を図れるように、学年間と学年を通しての系統的な単元構成がされている。	①各教材の「学びへの扉」で「見通しをもつ」「捉える」「深める」「考えをもつ」「振り返る」の一連の流れを明示することで、学習過程に沿って学びのスパイラルが形成され、主体的な学びが引き出せるよう工夫されている。 ②各学年「学習の見通しをもとう」で、1年間で身につける資質・能力、他教科やSDGsとのかかわりを明記している。 ③学習を通して身につける資質・能力を明示した「学びのカギ」を全領域に設置することで学びのつながりを明確化し、習得した資質・能力を活用することを繰り返して確実に言語能力を育成できるよう工夫されている。 ④古典分野のビジュアル資料が各学年とも豊富である。また、登場人物や作品の全体像を解説するコラムが新設され、生徒の興味・関心を高めることができる。 ⑤「話すこと・聞くこと」以外の領域でも、案内状の作成や本紹介のポップをつくるなどの活動が取り入れられ、体験を通して言語能力を伸ばす工夫がみられる。 ⑥1年巻頭に小学校の学習内容を確認するための特設教材を配している。3年では、論説や古典などの分野で高等学校への接続を意識した教材を取り上げている。 ⑦「情報と情報の関係」を扱う「思考のレッスン」や、「情報の整理」について扱う「情報整理のレッスン」を設けている。また各学年に、SDGsを題材に3年間を通して情報活用力を養う特設教材を設けている。 ⑧二次元コードに、「国語の力試し」CBT や「書くこと」のミニレッスンなど自学自習や家庭学習にも活用できるコンテンツが収録されている。
（エ）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②カラーユニバーサルやユニバーサルデザインフォント、デジタル機器で表示した際の視認性が向上した書体が採用されている。 ③挿絵・図版・写真は、文章の理解を助ける資料性の高いものや、活動の手順や留意点をわかりやすく示すものが掲載されている。	①概ね適切である。 ②ユニバーサルデザイン、カラーユニバーサルデザインが取り入れられ、拡大教科書や資料のデジタルコンテンツも用意されている。 ③情報に関する教材や古典分野の図版が充実している。	
（イ） 教科・種目別の観点	①学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の資質・能力を育成するための題材として工夫や配慮がなされているか。	①領域ごとに「学びナビ」で学習する内容を明示し、学習のプロセスに即して言語活動を展開し、確実に資質・能力の育成を図るとともに、学んだことを生かして次のステップへスムーズに移行できるように工夫されている。	①「話すこと・聞くこと」では対話、スピーチ、プレゼンテーション、討論など、「書くこと」ではレポート、案内文、手紙や電子メールなど多彩な言語活動が設定され、体験を通して各領域で資質・能力を育成できるよう工夫されている。
	②語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮がなされているか。	②「読むこと」教材では、重要な語句や表現は脚注欄に学習上の観点とともに抽出し、教材の理解を助けるとともに、異なる学習場面での理解や表現に生かせるように配慮されている。巻末付録に、「理解に役立つ言葉」「表現に役立つ言葉」を設け、語彙の拡充と論理的思考力の具体的な手立てとなるように示されている。	②本編と資料編の間にブックインブック形式で「語彙ブック」を設け、生徒が学習や生活の中で必要に応じて主体的に参照・活用し、自分の思考や感情を的確に言語化するための語彙力を身につけられるよう工夫されている。また、全領域で「言の葉ポケット」を設け、語彙の特設教材だけでなく、国語の学習全体を通して常に言葉に着目し、語彙を広げ、語感を磨けるよう工夫されている。
	③読書活動の充実を図るための題材として工夫や配慮がなされているか。	③単元ごとに「広がる本の世界」を設け、3年間で合計334冊の本を紹介している。付録「言葉の自習室」では、読書作品として多様な文種や話題の作品を掲載している。また、巻末の見返しには各都道府県を代表する作家と作品が写真とともに紹介されている。	③各学年に配されている特設教材「いつも本はそばに」では、多様な分野へ読み広げる契機となる作品・文章と読書活動、読書案内、コラムを位置づけ、読書への意欲を喚起するよう工夫されている。また、特設教材「本の世界を広げよう」や教材末尾の「広がる読書」等で、3年間で合計447冊の図書を紹介している。